



藤屋 侃士
(下松市幸ヶ丘)

318

かたつむり大学復活

「新たな」いのちへの希望②

老神父からの遺影撮影に触発され、私も死の準備をしなくては思いついて始める。死んだあと、故人が使っていたものの片付けは大変で、最近はその仕事をし、会社まであるという。

自分が死んだあと、子供たちになるべく迷惑をかけないように部屋を片付ける。どの押し入れも物が一杯。それを出して整理すると一つ一つに思い出があり、片付けるどころか、逆に部屋中、足の踏み場もない状態となる。それでも一週間に一つの押し入れの整理を目標に、最少限の物だけを残し、そのほかは処分しようと努力している。

四十三年間働いた放送局、特に最後の十年余はラジオの制作現場にいたので、それに関連するものが押し入れの中に

たぐさん眠っている。中でも「かたつむり大学」の百本の講演録音テープをはじめ数々の関連資料が目につく。かたつむり大学は下松市のザ・モール周南で毎月一回、梅光学院大学の佐藤泰正文学博士を講師に迎えて開いた近代日本文学の講座である。

ザ・モール内のサテライトスタジオのラジオ番組と連動した生涯学習講座として八年二月、回数は百回を数えた。漱石十二夜に始まり、宮沢賢治、中原中也、遠藤周作、芥川龍之介など扱った作家は二十人を超え、無料だったこともあり、毎回百人を超える人が熱心に受講された。自分が企画、実施したもので思い出深い。

この講座を個人的にすべて録音し、老後は文学好きな仲間と週一回集って聞き、話し合おうというのが夢であった。しかし、押し入れ

に眠り続け、全く役立っていない。思い出深いからと残しておけば、ほとんどをこのままにして死を迎えることになる。愛着はあっても手放し、大切にしてくれる人にプレゼントしようと思った。

その時、思い浮かんだのが、一人の熱心な受講生だった下松在住の矢野萬理子さんという婦人だ。途中からは進んで受付の手伝いをして下さり、佐藤泰正先生が宮沢賢治賞を受賞された時は、岩手県花巻市での表彰式にわざわざ参加されるほどだった。

その後私がこの巡礼記を書き始めると新聞を購読して下さるなど、何ごとも肯定的に前向きに対応され、いろいろ勇気づけられた。

電話でテープをプレゼントしたいと言うと大変喜ばれた。そしてテープを持参して応接間に通されてびっくり。

大切に保管されていたというザ・モール店内に張っていた各回のかたつむり大学の告知PRのA4判のポスターが応接間の二面にずらりと張ってある。何というホスピタリティだろう、思わず涙ぐんでしまった。

その後、一本々々聞いてみると連絡があり、私の手元で死んでいたものが復活したと喜んだ。

キリスト教信仰の根幹である「復活」。死んだあと、かたちをかえ、新たないのちとして生き続ける。しかし天の国は死後だけのことでなく、信徒ではない一人の婦人から、生きて今、天の国を生きることが大切であると教えられたのである。

そんな信仰へと成長するようお願いつ...



佐藤博士によるかたつむり大学

自分が死んだあと、子供たちになるべく迷惑をかけないように部屋を片付ける。どの押し入れも物が一杯。それを出して整理すると一つ一つに思い出があり、片付けるどころか、逆に部屋中、足の踏み場もない状態となる。それでも一週間に一つの押し入れの整理を目標に、最少限の物だけを残し、そのほかは処分しようと努力している。

四十三年間働いた放送局、特に最後の十年余はラジオの制作現場にいたので、それに関連するものが押し入れの中に

たぐさん眠っている。中でも「かたつむり大学」の百本の講演録音テープをはじめ数々の関連資料が目につく。かたつむり大学は下松市のザ・モール周南で毎月一回、梅光学院大学の佐藤泰正文学博士を講師に迎えて開いた近代日本文学の講座である。

ザ・モール内のサテライトスタジオのラジオ番組と連動した生涯学習講座として八年二月、回数は百回を数えた。漱石十二夜に始まり、宮沢賢治、中原中也、遠藤周作、芥川龍之介など扱った作家は二十人を超え、無料だったこともあり、毎回百人を超える人が熱心に受講された。自分が企画、実施したもので思い出深い。

この講座を個人的にすべて録音し、老後は文学好きな仲間と週一回集って聞き、話し合おうというのが夢であった。しかし、押し入れ

に眠り続け、全く役立っていない。思い出深いからと残しておけば、ほとんどをこのままにして死を迎えることになる。愛着はあっても手放し、大切にしてくれる人にプレゼントしようと思った。

その時、思い浮かんだのが、一人の熱心な受講生だった下松在住の矢野萬理子さんという婦人だ。途中からは進んで受付の手伝いをして下さり、佐藤泰正先生が宮沢賢治賞を受賞された時は、岩手県花巻市での表彰式にわざわざ参加されるほどだった。

その後私がこの巡礼記を書き始めると新聞を購読して下さるなど、何ごとも肯定的に前向きに対応され、いろいろ勇気づけられた。

電話でテープをプレゼントしたいと言うと大変喜ばれた。そしてテープを持参して応接間に通されてびっくり。

大切に保管されていたというザ・モール店内に張っていた各回のかたつむり大学の告知PRのA4判のポスターが応接間の二面にずらりと張ってある。何というホスピタリティだろう、思わず涙ぐんでしまった。

その後、一本々々聞いてみると連絡があり、私の手元で死んでいたものが復活したと喜んだ。

キリスト教信仰の根幹である「復活」。死んだあと、かたちをかえ、新たないのちとして生き続ける。しかし天の国は死後だけのことでなく、信徒ではない一人の婦人から、生きて今、天の国を生きることが大切であると教えられたのである。

そんな信仰へと成長するようお願いつ...



応接間に所狭しと張られたかたつむり大学のポスター